

第7分科会「研究・研修」運営概要

【研究課題】

学校の教育力を向上させる研究・研修の推進における校長の在り方

【研究の視点】

1. 教職員としての資質・能力の向上を目指した研究・研修体制の充実
2. キャリアステージを意識した展望や、学校経営への参画意識をもたせる研修の推進

I 分科会研究協議の運営計画

教育を取り巻く環境が大きく変化する中で、国民の学校教育に対する期待に応えるためには、しなやかな知性と豊かな人間性をもつ子どもの育成を目指し、教育活動の直接の担い手である教職員が資質・能力をより一層高め、教育力を向上させることが求められる。

これからの教職員に必要とされる指導力は、教科指導・生徒指導・学級経営などの能力に加え危機管理能力や保護者対応などへの対応力等も含めた総括的な実践的指導力であり、児童や学校・地域の実情に合わせて柔軟かつ創造的に指導内容・方法を選択し、指導の充実を図っていく能力である。加えて、教職に対する強い情熱をもち、教育にかかわる専門家として、保護者と連携・協働を図り、児童の人格形成によい影響を与える存在となることを期待されている。

校長は、教職員一人一人の学級経営力・生徒指導力・校務企画運営力などを見極め、個々に応じた的確なミッションと具体的な解決に向けたビジョンをもたせるとともに、教職員の資質・能力、チーム力の向上、学校経営への参画意識を高める研究・研修を進めていく必要がある。

本分科会では、教職員の資質や能力の向上を図り、展望や参画意識をもたせ、学校の教育力を向上させる研究・研修体制の確立と、その推進について、具体的方策と成果を明らかにする。

視点1 教職員としての資質能力の向上を目指した研究・研修体制の充実

- ・教職員の人間力を培い、専門性を発揮して教育力と授業力を高める研修体制の確立
- ・教職員一人一人が研鑽を積み、専門性・人間性を高める自己変革の実現

視点2 キャリアステージを意識した展望や、学校経営への参画意識をもたせる研修の推進

- ・ミドルリーダーに求められる資質・能力を引き出し、その育成に向けた学校づくりの推進
- ・管理職としての資質・能力の向上を図る具体的方策

II 昨年度までの成果・課題

【成果】視点1…校長の積極的な指導・関与による研究・研修の推進

校長が教職員の力量や長所・特性に応じて、資質・能力の向上に資する研究・研修を可視化することにより、研修意欲が高まるとともに、学校力の向上に効果的であった。

視点2…教職員の意識改革・行動変革、経営参画意識の向上

校長が若手教員を主任層に抜擢し、チーム力によって支え、学校運営に貢献する人材配置を決断することは、経営参画意識の向上や学校組織の活性化に有効であった。

【課題】視点1…校長の積極的な指導・関与による研究・研修の推進

研究・研修を推進する時間の確保や、管理職以外の指導教員の不足について、抜本的な改善策を講じる必要がある。働き方改革とのバランスを考慮し、時間を生み出す工夫を進める動きを作ることも必要である。

視点2…教職員の意識改革・行動変革、経営参画意識の向上

学校教育の質の向上に資する経営参画意識を醸成にするため、OJTやメンターチームの編成等、具体策を講じる必要がある。

Ⅲ 研究発表の概要

◇研究発表者 旭川地区 旭川市立西御料地小学校 石ヶ森 孝順 校長

「これからの校内研修の在り方と教職員一人一人の資質・能力を高める方策」

◇発表の概要

本校長会は今年度より、2つの視点①これからの校内研修の在り方 ②教職員一人一人の資質・能力を高める方策に基づき、2ヶ年計画の研究をスタートした。1年次にあたる今年度は、各学校における校内研究の現状を調査し、校長が重視すべきと考える方向性とその方策を明らかにする研究である。

まず、視点1「学校教育力を向上させる研究・研修の在り方」についてアンケート調査から浮き彫りになった旭川市の現状から①仮説検証型の校内研究や公開研究会の見直し ②授業の改善や質の向上につながる研修内容の焦点化 ③教育課程の編成に結び付く研修の工夫 ④自校における必要性を踏まえた研修テーマの選択、という4つの方策を示した。

次に、視点2「教職員一人一人が校内外において専門性を高めることができる個へのアプローチ」についても、①初任段階教員を育てる研修方法の工夫 ②ベテラン段階教員の学び続ける姿勢の喚起 ③「総合的な人間力」を高め合う研修方法の工夫 ④関係機関等との連携を生かした研修の推進 という4つの方策に基づき、実践事例を集めながら検証を進めている。

Ⅳ 協議の流れ

1 開 会：日程確認 (5分)	13:00～13:05
2 趣旨説明 (10分)	13:05～13:15
3 研究発表 (25分)	13:15～13:40
4 研究討議① (20分) ※研究発表に対する質疑	13:40～14:00
5 休 憩 (15分)	14:00～14:15
6 研究討議② グループ討議 (80分) ※休憩含む	14:15～15:35
7 研究討議② 発表・全体討議 (35分)	15:35～16:10
8 まとめと今後の課題 (15分)	16:10～16:25
9 連絡・閉会 (5分)	16:25～16:30

Ⅴ 討議の柱

【視点1】

○日常実践に生きる研究・研修体制をどうつくるか

キーワード 研究会のあり方・テーマ設定 (選択や重点化)・組織と時間の効率化・時間の生み出し方

【視点2】

○教職員個々の力量を高める研修の機会・組織をどうつくるか

キーワード 初任者段階・ベテラン段階・研修方法の工夫・関係機関との連携・人事評価の活用

Ⅵ お願い

◇グループ内で名刺交換を行いますので10枚ほどお持ちください。

◇グループ内での司会・記録をお願いする場合があります。その際はよろしくお願いたします。

◇各地区・各校の現状や取組についてグループ討議の中で交流します。

◇地区・自校で本分科会の「討議の柱」に即した取組がありましたら、A4・1枚程度にまとめ、10部程お持ちください。(研修会のもち方について工夫例・組織の工夫例・研究会の工夫例 など)

◇服装は、ノーネクタイ+上着ありのクールビズを基本といたします。